

○物流の「2024年問題」は、喫緊の課題であると同時に、年々深刻化する構造的な問題。2030年に不足する輸送力を補うため、物流DX・GXや多様な輸送モードの活用、物流拠点の機能強化等について、物流産業全体でこれまで以上に推進していくことが不可欠。

○このうち、多様な輸送モードの活用については、陸・海・空のあらゆる輸送モードを総動員して、トラックドライバー不足や物流網の障害などに対応するため、以下①～④の柱に沿って、新たなモーダルシフト等を強力に推進。

① 鉄道や内航海運へのモーダルシフトの取組の更なる強化

- －鉄道や内航海運の小口貨物の混載輸送やパレット化
- －内航海運の新規需要の創出や船舶大型化
- －内航フェリー・RORO船ターミナルや貨物駅・ネットワークの機能強化
- －鉄道の貨客混載による旅客スペースの有効活用 等

② 幹線輸送サービスの省人化・自動化等の推進

- －ダブル連結トラックや自動運転トラックの導入促進、関連インフラの整備 等

③ 航空貨物輸送の更なる活用

- －既存定期便の空きスペース等を活用した実証運航支援
- －空港への貨物検査機器等の導入促進 等

④ 地域の産業政策・地域政策等との連携